

## CubeSuite+用コード生成 ご使用上のお願い

CubeSuite+ 用コード生成 (CubeSuite+ Code\_Generator) の使用上の注意事項2件を連絡します。

- 編集したソースコードが消える場合の注意事項
- ポートが正しく設定されない場合の注意事項

### 1. 編集したソースコードが消える場合の注意事項

#### 1.1 該当製品

- CubeSuite+用RL78ファミリ, 78K0R, 78K0コード生成  
(CubeSuite+ Code\_Generator for RL78\_78K V1.00.01 ~ V2.00.00)
- CubeSuite+用V850コード生成  
(CubeSuite+ Code\_Generator for V850 V1.00.02 ~ V2.00.00)

#### 1.2 内容

コード生成のプロパティで、「ファイル生成モード」に「ファイルをマージする」を選択して、下記の各コメントの間にソースコードを書くとファイルがマージされます。

```
/* Start user code. Do not edit comment generated here */
```

```
/* End user code. Do not edit comment generated here */
```

しかし、編集したソースコード中の括弧 "{" と括弧 "}" の数が、コメントも含めて合わない場合にコード生成を行うと、編集したソースコードが消える場合があります。

#### 1.3 解決策

ファイルをマージする機能を使用する場合は、コメントも含めてソースコード中の括弧 "{" と括弧 "}" の数を合わせてください。

### 2. ポートが正しく設定されない場合の注意事項

#### 2.1 該当製品

- CubeSuite+用RL78ファミリ, 78K0R, 78K0コード生成  
(CubeSuite+ Code\_Generator for RL78\_78K V1.00.01 ~ V2.00.00)

## 2.2 内容

該当製品に含まれるRL78/G1Aグループ用コード生成でポートが正しく設定されない場合があります。

## 2.3 回避策

生成されたコードの void R\_PORT\_Create() 関数を確認し、下記の修正例を参考にコードを修正してください。

出力されたソースの修正例:

RL78/G1AのR5F10EBAで「ポート13」を出力に設定してコード生成を行うと、void R\_PORT\_Create() 関数には、下記のコードが出力されます。

誤:

```
-----  
PM1 = _01_PMn0_NOT_USE | _02_PMn1_NOT_USE | _04_PMn2_NOT_USE |  
_00_PMn3_MODE_OUTPUT | _10_PMn4_NOT_USE | _20_PMn5_NOT_USE |  
_F8_PM1_DEFAULT;  
-----
```

正しいコードは以下のとおりです。

\_F8\_PM1\_DEFAULTの\_F8 (0xF8) を、\_C0 (0xC0) に修正してください。

正:

```
-----  
PM1 = _01_PMn0_NOT_USE | _02_PMn1_NOT_USE | _04_PMn2_NOT_USE |  
_00_PMn3_MODE_OUTPUT | _10_PMn4_NOT_USE | _20_PMn5_NOT_USE |  
_C0_PM1_DEFAULT;  
-----
```

## 2.4 恒久対策

CubeSuite+ の次期バージョンで改修する予定です。

リリースまでに対策が必要な場合は、以下のWebページからご相談ください。

技術問合せ: <https://www.renesas.com/support/contact.html>

---

### [免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。